

平成29年7月25日

学校関係者評価報告書

学校法人 葛谷学園
中和医療専門学校

自己点検・自己評価実施委員が作成した「平成28年度自己評価表」を基に学校関係者評価を行いました。その結果を以下の通り報告します。

1. 学校関係者評価委員会

学外委員（五十音順）

- 石川 奈美 氏（保護者）
- 伊藤 秀雄 氏（クローバー治療院グループ代表 本校卒業生）
- 小川 稔 氏（小川鍼灸院院長 本校卒業生）
- 酒井 定子 氏（保護者）
- 藤川 和秀 氏（愛知県柔道整復師会副会長）
- 村田 守宏 氏（むらた鍼灸院院長 本校卒業生）

学内委員

- 右田 一弘（中和医療専門学校校長）
- 楠本 高紀（中和医療専門学校副校長）
- 古橋 一人（あはき関係科学科長）
- 葛谷 壽彦（柔道整復科学科長）
- 清川 朝栄（あはき関係科臨床実習施設長）
- 戸崎 素成（柔道整復科臨床実習施設長）
- 吉田 和生（あはき関係科校務主任）
- 森 輝久（中和医療専門学校事務局長）
- 吉野 真二（中和医療専門学校事務局職員）
- 鈴木 映憲（中和医療専門学校事務局職員）
- 平野 良彦（中和医療専門学校事務局職員）

2. 学校関係者評価委員会会議

- 第1回 平成29年6月25日 14:00から16:00
 - 第2回 平成29年7月16日 14:00から15:45
- 場所：各回とも3号館会議室

3. 基準項目ごとの学校関係者評価・意見

分類	コメント（意見・評価等）
基準 1	<p>(1) 1-1-1理念・目的・育成人材像について、生徒便覧、学則第3条に明確に定められているとあるが、1ページ課題と解決策に、理念が不明確とあり、不一致なのではないでしょうか？</p> <p>また、生徒便覧、学則第3条にも「理念」の文言が必要ではないでしょうか？</p> <p>【回答】生徒便覧には教育目標として記載がある。理念については平成 29 年度中に方向を決めていきたい。</p> <p>現在、原案は学園理事の意見を求めているところである。決定後、生徒便覧に掲載していくのは今後の課題である。</p> <p>(2)中和医療専門学校の『中庸の精神』をもって、医療に携わる者として、鍼灸・あん摩マッサージ指圧師の知識・技術の習得に努める、また医療人としての資質の向上を求める</p> <p>【時の挨拶】等のできる社会人の育成を求めます。</p> <p>【回答】あいさつについては昨年もご意見をいただいたが、重要なことだと考えている。今年度始業式において校長訓話であいさつについて触れ、実践中である。</p> <p>(3)・教育理念をもっとシンプルに明確にする。</p> <p>・「充実した臨床教育」→より具体的に。</p> <p>【回答】「充実した臨床教育」について</p> <p>あはき科については附属治療所で年間 60~70 名の患者にあたることができ、充実していると考えている。</p> <p>柔整科については附属接骨院で年間 6~7 名と少ないのが課題である。これは教育内容に伴うよう骨折脱臼などの外傷に限るため、患者数を多くするには限界がある面もある。近隣大学と連携し、スポーツ外傷等に触れられるよう手を打っているが、H30 年度新カリキュラムにおいて外部で研修ができるよう調整中である。</p> <p>関係団体に協力をお願いしながら進めていきたい。</p> <p>臨床実習の充実については「質と量」が必要になってくると考えている。質については様々な疾患に対応できるよう治療所スタッフの教育を実施中である。量については、施術にはある程度の「慣れ」が大切になってくるので多くの患者に触れるのが望ましいが、個人ごとに担当人数のばらつきが発生してしまうのが課題であると考えている。</p> <p>(4) 政策と制度の変化にこれまでと同様に柔軟に充分に対応して欲しい。</p>

<p>基準</p> <p>2</p>	<p>(1)2-7-1学籍管理用、給与管理用、経理用パソコンは独立しているとのことだが、いつ誰がアクセスしたかの記録が残るシステムになっていますでしょうか？</p> <p>【回答】業務内容ごとに専用 PC で業務を行っており、決められた担当者しか取り扱いができない（個別の ID とパスワードがなくては扱えない）のでアクセスログでの管理は必要ないと考えている。</p> <p>(2)2-5教職員の罰則規定の有無は？</p> <p>2-6意思決定後の上部(委員会、校長、理事長等)への報告の有無は？</p> <p>【回答】教職員の罰則規定については就業規則に懲戒規定がある。意思決定後の報告については、案件の重要度によってプロセスは異なるが、基本的には意思決定前に上長に相談し決定する。正式に意思決定が成された後、上部によって承認がなされる。</p> <p>(3)・中長期的な運営方針が必要。</p> <p>【回答】現在上層部と相談中である。決定次第公表していく。</p> <p>(4)意思決定のシステムには、公正で明確であることを望みます。</p> <p>最終的には満足のいく就業、キャリアの形成ができる力と環境を得ることなので、学生対象の情報提供システムの整備に努めて欲しい。</p> <p>【回答】意思決定のシステムが公正明確であるよう努めていく。情報提供システムについては IT 化も検討しているが予算等の都合もあるので、できうる範囲で分かりやすい提供ができるよう媒体にこだわらずブラッシュアップをしていく。</p>
<p>基準</p> <p>3</p> <p>本科・専科</p>	<p>(1)3-12-3各教員の校務内容が年度毎に変更され・・・とあるが、校務内容とはどのようなことでしょうか？</p> <p>【回答】校務は常勤教員に振り分けられており、校務分掌表に詳しく記載されている。教員は授業のほかに、教室・教材・備品等の管理、図書（図書館）管理等があり、数年で役割をローテーションすることで偏りなく校務が行えるようにしている。</p> <p>(2)医療の原点は【手当】である。</p> <p>あん摩マッサージ指圧は、まさに【手当】を施す手技療法である為もっと重視をしなければならない。はり・きゅうの施術は【本治法】五臓六腑の調整と【標治法】の局所(疼痛等)の施術であるが、一般に開業している鍼灸師のほとんどは【本治法】ではなく【標治法】の痛みに対する施術だけで【本治法】の施術はしていないのが現状である。</p> <p>学校で【本治法】の指導はどの様になっているか。</p> <p>【回答】3年生の総合実習で「評」「本」を復習・練習している。中医学や経絡もおろ交ぜ、国家試験を意識しつつ東洋医学に広く触れられるようにしている。</p> <p>(3)・教育理念に基づいた、より具体的な特色ある活動が大切。例:挨拶の励行、標語の掲示、グループ活動etc.</p>

	<p>・学内での実技試験の充実、レベルアップ。</p> <p>【回答】2年生の1月に臨床実習に入る前の実技学科試験、稲沢消防署指導のAED講習受講などを行っている。また、正課の授業後にスポーツ鍼等の専門性の高い内容を特別補講として実施し、スキルアップを図っている。</p> <p>(4)実技経験が積めるカリキュラムは中和の魅力であり、学生の自信の裏付けとなって欲しい。</p> <p>【回答】附属治療所も含め、一生懸命やっていきたい。</p>
基準	<p>(1)3-8-2常に見直しを行っているがあるとあるが、何の見直しを行っているのでしょうか？ また、社会のニーズに答える教育を進めたいとあるが、社会のニーズを把握するための手段はどのようなことを考えていらっしゃいますか？</p> <p>3 【回答】学生の学習習熟度を見ながら、到達目標の見直しをしている。柔道整復学校協会や柔道整復師の業界団体での活動を通し動向を把握している。</p> <p>柔 整 科</p> <p>(2)特記事項が空白であるが、特徴、特色等が無いのですか？(P18)</p> <p>3-9-4(イ)検討中である。→いつまでにどの様にするのか、タイムスケジュールは？</p> <p>3-10(イ)取り組んでいく→いつまでにどの様に実施するのか？</p> <p>【回答】・「エコーを導入し、より正確な判断ができるようにするなど、教員が積極的に研修に参加し授業に反映している」が特徴と言える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートは作成中。実施時期は現在未定である。 ・東海学術大会で学生が研究発表できるよう計画する。 <p>(3)学生の学力低下は国家資格の合格率に映るだろうし、その結果は入学希望者の数と質にも影響することなので、具体的な対策の実行が急がれる。</p> <p>【回答】1年生から補講を実施し、個別に面談して学生とコミュニケーションをとりながら対応している。</p>
基準 4	<p>(1)4-13特記事項について、企業説明会は1年生から参加することが出来、卒業後の自分をよりリアルにイメージすることが出来るため、勉強へのモチベーションアップにつながっていると感じました。</p> <p>【回答】今後も進めて行きたい。</p> <p>(2)中和医療専門学校为国家試験合格率は全国平均を上回っているというが28年度の国家試験の内容が厳しくなったと聞いているので国家試験の対策を今以上に充実を求める。</p> <p>【回答】平成28年度は国試の合格率は全国的に下がった。今後の国試の動向を分析しながら合格率向上につながるように続けていく。</p> <p>(3)(P24)特記事項記載なし</p> <p>4-15業界での高い評価→根拠を示す事。</p>

【回答】・特記するならば、「就職活動が国試受験で遅くなりがち傾向があるので、夏休み前の早い時期に企業説明会を開催している。参加企業や生徒へアンケートを行い、次回以降の開催や就職支援の参考にしている」

・求人数が平成 26 年度 1727 件、平成 27 年度 1832 件、平成 28 年度 2208 件と卒業する学年の定員が 160 名のところに数多くいただいている。一定の評価はいただいているのではないかと考えている。

(4)・本校卒業生(業界)とのパイプを太くする。

就職率のupや業界での卒業生の貢献向上により、本校の知名度がupする。

・3年生向けの治療院見学に1, 2年生も参加してよいのではないか。

【回答】現在、同窓会を通じて新年交歓会、機関紙「中和だより」発行、学校行事として企業説明会、治療院見学などを行いパイプの形成をしている。愛知県鍼灸マッサージ師会のボランティア活動への参加など業界とも関係強化を図っている。治療院見学については1, 2年生はまだ知識技術の習熟度の点でふさわしくなく、受け入れ先への迷惑になる可能性が高いので考えていない。

(5)学習意欲を高める工夫が待たれる。

学生の就職経験を共有できる仕組みがあっても良いかもしれない。

【回答】常設の求人情報展示（求人票のファイル、勉強会のポスター、企業のパンフレット配布）の他は治療院見学や企業説明会が求職者のニーズに応える主な機会となっている。手法や仕組みについては今後も課題を検討し良い情報提供ができるようにしていく。

基準 (1)5-16就職活動が疎かになっている学生に対し、どのような対策をとっていらっしゃいますか？

5 【回答】国試が終わるまで就職活動しない者は一定数いる。資格が取れないと働けないので仕方がない部分があるが、いざ動くときに戸惑わないように、早い時期に企業説明会を行い情報収集や就職のイメージを持ってもらい、国試後に慌てなくてもよいように配慮している。また国試が終わった後に就職担当の教職員と個別に面談する相談会を開催している。

(2)同窓会について

学校側の趣旨

卒業生の卒業後の動向(住所及び勤務先)を把握したい。

卒業生側の趣旨

同一の地域にいても卒業年度の違う卒業生がいる事も知らずにいることが多いので卒業生の卒業後の動向（住所及び勤務先）を把握したい。

学校側と卒業生側の趣旨が一緒であったので開校15周年に同窓会が発足した。

学校側の趣旨と卒業生側の趣旨が一致した同窓会をもっと学園の為に活用したらどうか。

【回答】今後こういった活用が良いのか等の検討が必要

(3)5-16中項目総括→対応の内容及び事例を示して欲しい。

5-17共有し対応している。→どの様な対応内容か示して欲しい。

5-18常駐カウンセラーについて、どの様に考え、実行しているのか、実施計画は？

【回答】・6名の教職員が相談に来た生徒に個別に対応している。

・退学希望などの申し出があった場合、まず担当が相談を受け、教員会議で問題を共有。必要があれば保護者を交え対応している。

・教員が生徒から受ける相談が、学習以外のものが増えてきている。繊細な問題もあるため、専門家の協力が必要になってきているのではないかと考えている。

(4)・学生支援の充実(学費、カウンセラー、治療etc.)

・卒業後支援制度の充実(継続的な情報・開業者支援)

【回答】特待制度など検討されたが、費用負担の軽減はなるべく全体に向けてしたいとのことで本校では学費設定を低くすることで生徒それぞれが金銭負担が少なくなるよう対応している。国の教育訓練給付金制度など、公的な支援に対応しているので、受給資格のある生徒・入学希望者に告知を行っている。

(5)社会経験のある学生と高校現役入学生との意識をそろえるのは困難なことに感じている。

【回答】社会人経験者がうまくクラスを引っ張ってくれるケースもある。コミュニケーションの苦手な生徒もいるので、個別で相談に乗る等、教員のフォローが必要。

基準 (1)大項目総括について、図書の貸出は週2回の一定時間のみでしょうか？

6 【回答】図書の貸し出しについては、月曜日・木曜日の週2日が貸出日となっている。12:30~13:00の昼休みと14:30~15:00の放課後に書籍1冊、DVD1本を1週間借りられる。その他には、あはき課程では課題研究の授業で担当の教員立会いのもと閲覧することができる。

専科 (2)・学生中心の教育環境が理想。

・学生が素直な意見を言える場が必要(アンケートのみでは不十分)。

【回答】伝統的に学生と教員の会話が多いため、新校舎ではよりコミュニケーションがしやすいように職員室やガレリアを設計した。勉強で分からない点や、相談事など学生と教員のコミュニケーションはとれていると認識している。積極的な学生から声を掛けられやすい環境にし、積極的でない学生に対しては教員からの声かけなども実施している。

(3)学校設備が充実しているのは多くの学生が満足していることかと思う。

実習用教材(「鍼」や「きゅう」アルコール)など学内で購入できたらいい。

【回答】基本的な教材の一部は事務窓口で販売している。需要が少ない製品については

	在庫管理の都合上取り扱っていないが、販売業者を紹介している。
基準	(1)6-24-1,6-24-2マニュアル、学校安全計画書について、命にかかわることですので、早急に作成していただきたいと思います。
6	【回答】現状では「計画書」という書式ではないが、学生が怪我をしたときの応対マニュアルはある。今後は火事、地震などの防災的なものも含め作成していく。
柔軟	
科	(2)6-23(ウ)見学施設の確保→現状の分析及び確保するための方策は？ 【回答】現状、医院 1 件の協力は確保している。オファーは各所に出しているが断られている現状である。今年度も引き続き、8 月以降に接骨院関係を中心に受け入れ先を探す計画である。また、来年度からの新カリキュラムでは臨床実習を外部でも行うということから業界団体と協定を結ぶところである。開業している卒業生に見学受け入れの打診も行う。
	(3)防災について、災害時には地域や周辺の住民から期待、協力依頼をされていることはあるのでしょうか？ 【回答】今年の 8 月にある稲沢市の防災に関するイベントで稲沢市に協力する予定。詳細は現在稲沢市と調整中であるが、避難場所におけるエコノミー症候群対策についての講座をする予定。 愛知県から、避難場所指定はされていないが非常時の協力依頼の要請はきている。ただ、現在のところ県の協力要請の具体的な内容は未定のままである。
基準	(1)7-27中項目総括について、教科書や教材費が授業料に含まれているため、予定外の出費がなく、とても助かっています。
7	(2)・特待制度(学費割引)の検討 【回答】過去に特待制度等を検討したこともあるが、学費の負担を軽くすることについては、教科書や教材代金を学費に含めた分かりやすい授業料体系と低めの価格設定ですべての学生に恩恵があるようにしている。
	(3)設備と学習で得られる資格が、学納金と見合うかどうか？ 学内の学ぶ雰囲気や自分が合うかが入学希望者の判断材料になると思う。これからも解りやすくオープンな説明会であって欲しい。 【回答】学校の雰囲気や、資格に対するイメージをわかりやすく伝える為に、今年度の学校説明会では実際の授業の動画や、目の前で学生の実技練習風景を見てもらうという試みを導入した。今後も入学希望者がイメージしやすいように向上していきたい。
基準	(1)8-29-1中期計画は作成しているとあるが、中項目総括に中長期計画を明確にすることで・・・とある。中期計画は作成されていないということでしょうか？
8	【回答】中・長期計画は作成している。経営上部は把握しているが、一般の教職員には公開していない。今後はある程度一般教職員も計画を把握したほうが効果的になる

	<p>のではないかという主旨で書いた。</p> <p>(2)・定員確保は、急速には向上しない。しっかりとした基盤(理念、教育環境)、特色を構築し、支出をまず抑える努力を。全職員との意見交流により、無駄な出費を改善する。</p> <p>【回答】財務状態や計画を共有することで予算編成などが効果的になると考えている。主任以上の教職員で年に2回、予算や運営上の課題を共有する会議を行っている。</p>
基準	<p>(1)コメント(意見・評価)は記述式でなく、選択式もしくは選択式+記述式になりませんか？</p> <p>9 【回答】外部の意見を多く聞くため、できるだけ記述式でお願いしたい。</p> <p>(2)・職員、学生に対する法令の周知徹底。 ・情報公開へのスピーディな対応。</p> <p>【回答】教職員に対しては、法令の改定があった場合回覧して周知している。学生に対しては、関連法規は授業で対応し、一般的な法令(選挙権の年齢引き下げ等)は掲示して周知している。</p> <p>柔整科の施術管理者の改定の件は重要性が高いと判断し、柔整科全員に説明会を行った。卒業生に対しては本校ホームページに告知をし、同窓会紙「中和だより」配達時に注意喚起文を同封する。</p> <p>情報公開については今日中にホームページに掲載できるよう準備を進めている。</p>
基準 1 0	<p>(1)10-36-1学校施設を開放する時は、どなたか職員が出勤されているのでしょうか？</p> <p>【回答】現在学校施設使用は、関連する団体や卒業生に対し公共性の高い事例に対し許可を出している。関連する教職員が必ず出勤している。今後、費用面など貸出規定を決める必要性を感じている。</p> <p>(2)・海外鍼灸学校との連携。 ・医療機関、医科大学との交流。</p> <p>【回答】かつて中国と連携を構想し視察したことがあったが、衛生面や治安の問題で検討を中止した経緯がある。</p> <p>柔整科でもアメリカに教員を派遣したことが有るが費用に対してのメリットが少ないと判断した。</p> <p>学生を渡航させるとしても費用負担の問題もあるので現在のところ海外との連携は考えていない。</p> <p>(3)今後も安全性を確保して、地域や社会と関わって欲しい。</p> <p>【回答】多職種の連携が必要になってきていると感じている。まずは医師との連携を増やすのがポイントではないかと考えている。現在もマッサージボランティア等、外部や学生にも評価を得ている活動があるので大切にしていきたい。全国的にも定員を割る傾向があるので、外部と関わり、選んでもらえる仕組みを模索していきたい。</p>
その他	<p>(1)若い鍼灸師の先生方のために 研修会・講習会の際、若い鍼灸師の先生方より必ず治療マニュアルを教えて欲しいと言われるが、治療のマニュアルは西洋医学には付き物であるが、東洋医学にはマニ</p>

マニュアルはありませんと言うと困り果てている若い鍼灸師の先生がいます。

若い鍼灸師の卒後教育に於いて、いろいろ問題点はあると思いますが、若い鍼灸師の臨床実習のできる場を設けていただけませんか？

【回答】卒後教育については業界団体や学校協会等が設立した「国民のための鍼灸医療推進機構（AcuPOPJ）」が卒後臨床研修制度を行っている。臨床研修施設数は少ないが本校も鍼灸師卒後臨床研修施設として登録されている。

在学中の学生も在学中から全日本鍼灸学会の学生会員になり、卒業後も任意で継続し学術的に向上心のある者は卒業後も関わりやすいようにしている。

マニュアルがないとだめだという学生は教育の現場でも感じている。言語化が難しい領域であり、繰り返し体で覚えるしかない部分はあるのだが中々伝わらない。

マニュアルで解決する問題ではないかもしれないが、無いと教育上どうしようもない場面もあるので、覚える指針になるようにということから「実習マニュアル」は作成している。しかし体系的に網羅することは困難であるので少しずつという感じではある。言語化し難い部分や、体で覚えるしかない部分の本当に基本的な部分の助けになればと思う。

(2)・大学卒業資格取得の早期実現。

・社会に開かれた鍼灸学校を。

【回答】専門職大学となるには敷地面積などの要件を満たすことができない。本校が専門職大学となるにはクリアするハードルが高く、今のところ考えていない。大学に編入したいという希望者は少なく、最近は専門学校からの編入を受け入れる大学も増えてきたのでそれらを利用する等のアドバイスをすることはある。

(3)柔整師は有資格者が溢れているという現状を感じているが、あはきはどのような感じか。

【回答】あはきは実費治療が多いため、軌道に乗れば比較的営業の継続がしやすいという印象である。以前行った卒業生へのアンケート調査では、回答率が非常に低い。そのため実際のところと違うかもしれないが、卒業後5年程度で、卒業生の少なくとも半数は関連した職に就いているようである。

(4)国家試験の不合格者に対してどういった対応をしているのか。

【回答】希望者に対して補講専任の講師による既卒者補講を週に2~3日実施している。また、在学中の学生であっても留年者や成績不良者に対し、常勤教員や補講専任教員による特別補講を行っている。